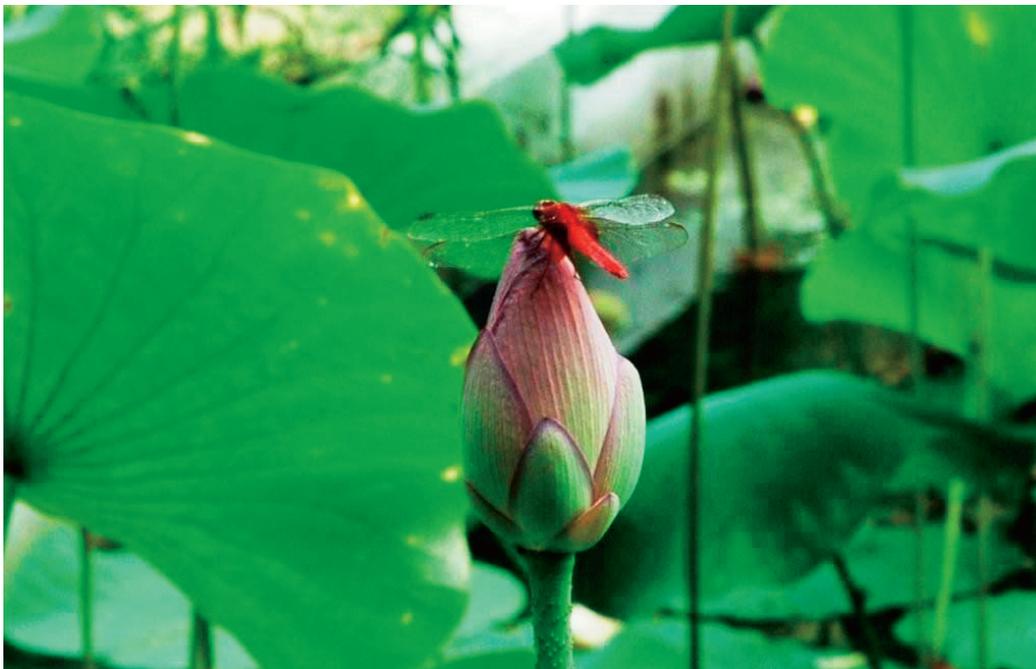


# えひめ Ehime Health Report

# 健康だより

## CONTENTS

胃がん検診における  
精密検査未受診者の追跡調査 ..... 1~4  
インフォメーション ..... 5  
わたしの職場から ~松山大学~ ..... 6



「浄瑠璃寺ハスに赤トンボ」 撮影:武智公正

# 胃がん検診における 精密検査未受診者の追跡調査

財団法人 愛媛県総合保健協会 精度管理室長 益田 栄治  
 医長 藤本弘一郎 参与 川上 壽昭

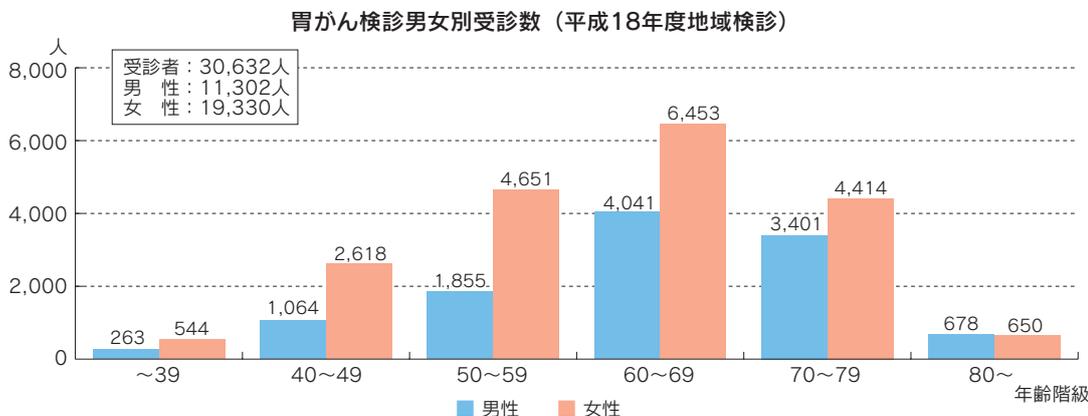
日本で平成18年度に胃がんが原因で死亡された方は、50,402人（男性32,732人、女性17,670人）で、全がん死亡者数の15.3%を占めています。死亡者数は男性の方が肺がん(45,927人)に、女性の方が大腸がん(18,653人)に次いで第2位になっています。愛媛県においても、胃がんにより死亡される方は減少傾向にあるものの、平成18年度では肺がん(826人)に次いで第2位(698人)になっています。

このような状況の中、当協会では地域住民を対象に年間約30,000人の胃がん検診を実施していますが、ここ数年受診者は年々減少傾向にあります。また、せっかく検診を受診され、その結果が「要精検」と判定された方で精密検査を受診されているのは、約86%にとどまっているのが現状です。

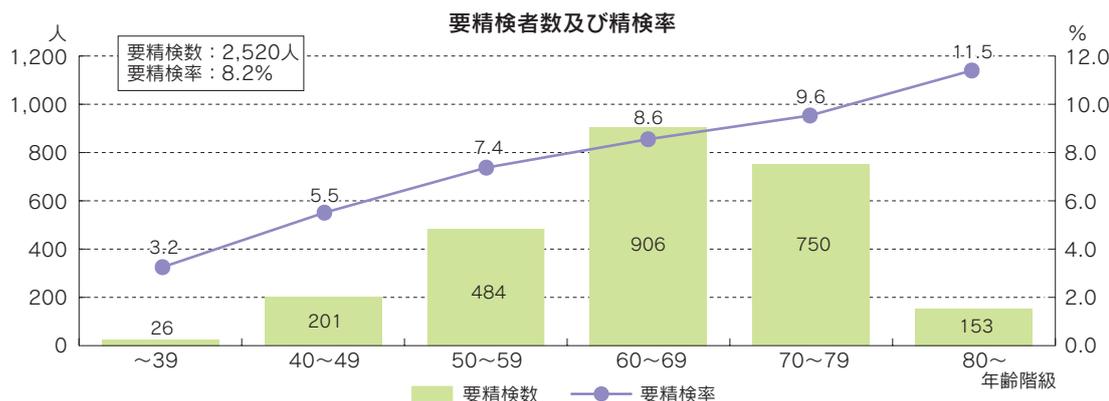
そこで本レポートでは、平成18年度に県内の市町から委託を受け、地域住民を対象に実施した胃がん検診の成績と併せ精密検査未把握者（未受診、未回答）を対象に行った追跡調査の結果を報告し、胃がん検診へのご理解を深めていただければ幸いです。

## 受診者数及び要精検率

平成18年度に実施した胃がん検診受診者数は30,632人（地域）、男女比では1対2で女性の方が多く、年代別では50～70代の受診者が全体の3分の2を占めています。



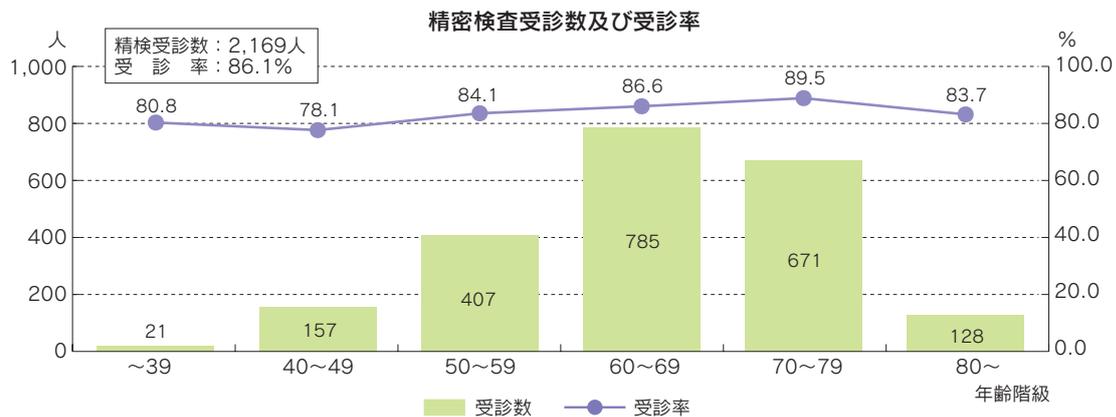
このうち「要精密検査」と判定された方は8.2%（2,520人）で、100人に8～9人の割合となっています。また、男女別の要精検率では男性10.5%、女性6.9%と男性の方が高く、加齢とともに高くなる傾向にあります。



## 精密検査受診率とがん発見率

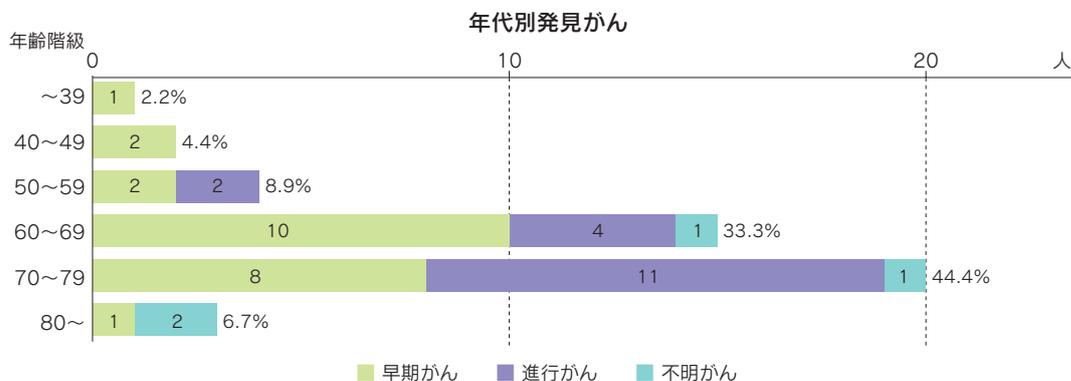
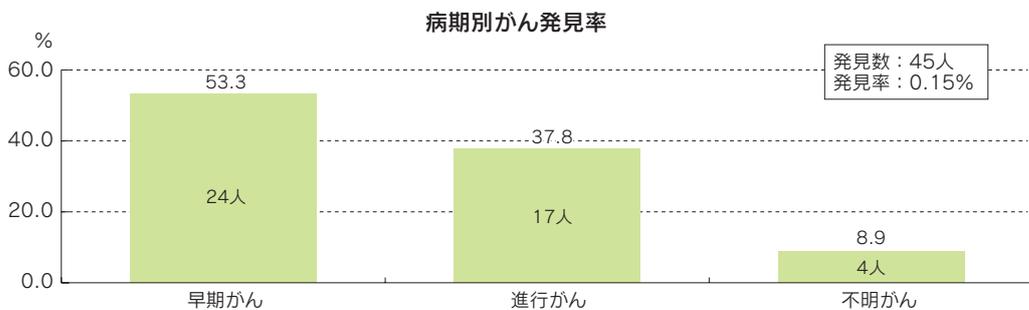
当協会ではすべてのがん検診で、判定結果が「要精検」であった受診者の方には精密検査を受けるよう勧めています。

平成18年度に胃がん検診で要精検となった方は2,520人で、このうち精密検査を受診された方は2,169人、受診率は86.1%でした。男女別では男性82.3%、女性89.7%、年代別では女性の50歳～70歳代が最も多く90.7%、逆に最も低いのは男性の40歳代で69.6%でした。



がんが発見されたのは45人、発見率は0.15% (45 / 30,632人) で、1,000人に約1人の割合でがんが発見されています。年代別では60～70歳代が77.8% (35 / 45人) と最も高く、40歳代では見つかりません。病期別では、早期がん53.3%、進行がん37.8%、不明がん8.9%となっています。

「要精検」であった方が精密検査を受診され、結果「がん」が見つかった確率を「陽性的中率」と言いますが、平成18年度の陽性的中率は2.07%で、これは精密検査を受診された方100人に2人の割合で「がん」が見つかったこととなります。



その他、精密検査で見つかる病気は胃以外の悪性腫瘍（男性：1人、女性：3人）や、胃潰瘍（男性：59人、女性：35人）、胃ポリープ（男性：134人、女性：342人）、胃炎（男性：362人、女性：389人）など、がんの45人を含めて1,702人（78.5%）に胃の病気が見つかります。

## 精密検査未把握者（未受診・未回答）の追跡調査

胃がん検診の精密検査受診率が低いのは全国的な傾向ではありますが、今回調査対象とした当協会の平成18年度の胃がん検診データでも、精密検査受診の有無が把握できなかった方は13.9%（351人）と、がん検診の中で2番目に悪い数値となっています。

精密検査受診の有無が把握できない原因としては

- ① 医療機関で精密検査を受診していないケース（未受診）
  - ② 医療機関で精密検査を受診したが、当協会に報告が届いていないケース（未回答）
- の2つがあります。

そこで、市町の協力を得て精密検査受診の有無が未把握であった351人のうちから、協力の得られる290の方を対象に①精密検査の受診状況、②精密検査を受診されていた場合その結果（がんが発見されたか）、③精密検査を受診されていない場合にはその理由、などの項目について調査を行いました。

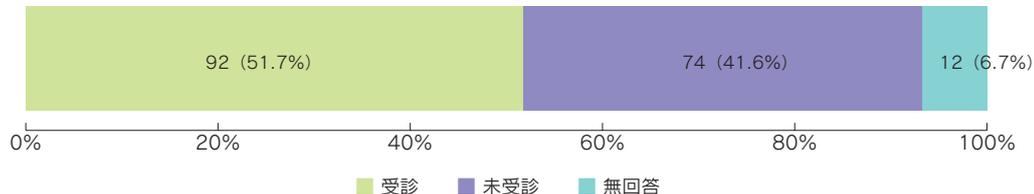
## 調査結果

調査票の回収状況は290人中、178人で回収率は60.7%

### 1) 精密検査受診状況

回答者178人中、精密検査を受診されていた方は92人（51.7%）、受診されていなかった方は74人（41.6%）、無回答者は12人（6.7%）でした。この結果から、精密検査を受診されていた155人については、医療機関から当協会へ精密検査結果報告が届いていなかったことになります。

精密検査未把握者の精検受診状況

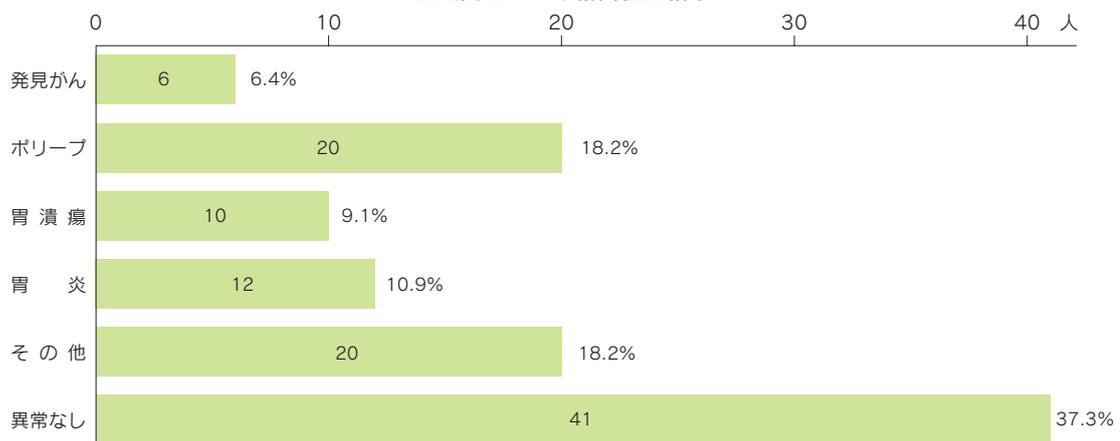


### 2) がん発見状況

精密検査を受診したと回答された92人のうち、がんが発見されたと回答された方は6人で、陽性的中率は6.5%（6/92人）となり、平成18年度実績の2.07%に比べ4倍以上の値になります。結果、本調査時点でまだ精密検査を受診されていない方、あるいは無回答の方を加えた計86人の方について、同様の陽性的中率で「がん」の発見を仮定すると、更に6人程度の「がん」が発見される可能性があります。

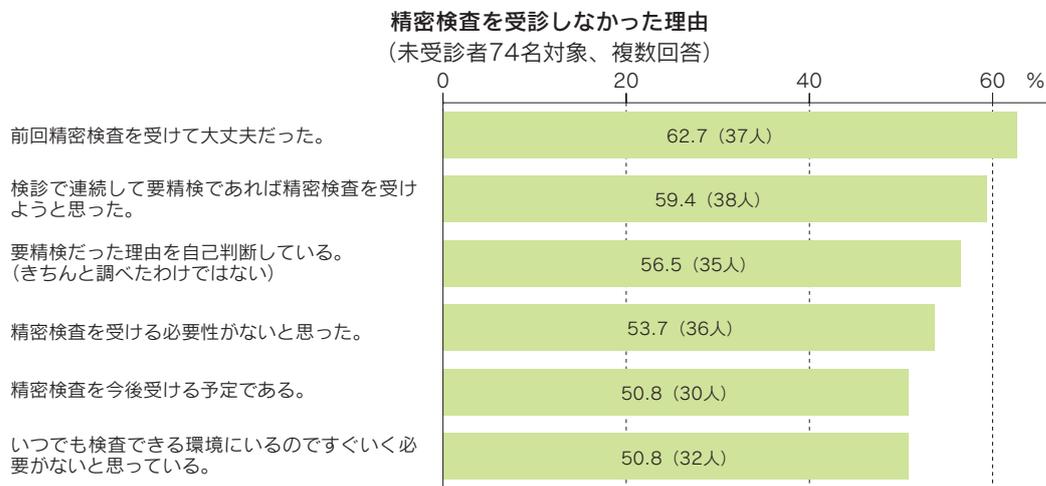
また、がん以外の病気では胃ポリープ20例も見つかっています。

追加調査による精密検査結果



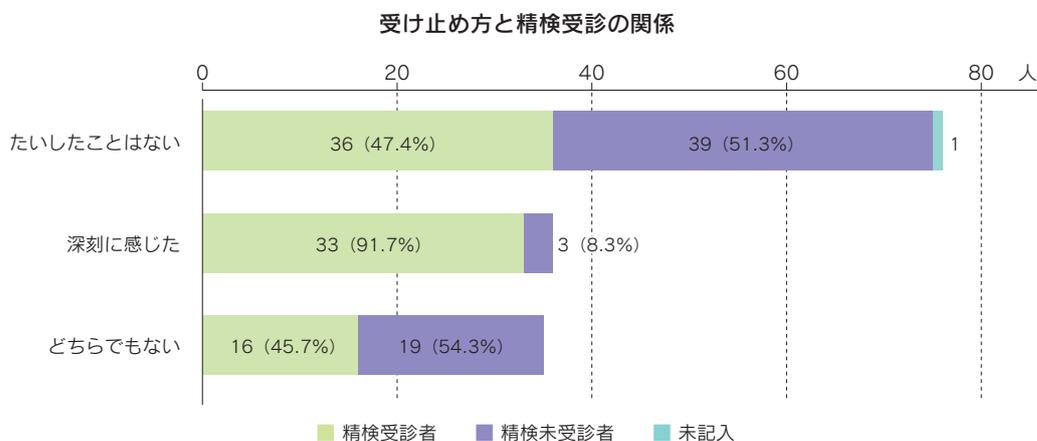
### 3) 精密検査を受診されなかった理由

精密検査を受診されなかった理由については、①前回精密検査を受けて大丈夫だった（62.7%）、②検診で連続して要精検であれば精密検査を受けようと思った（59.4%）、③要精検だった理由を自己判断している（きちんと調べたわけではない）（56.5%）、④精密検査を受ける必要性がないと思った（53.7%）、⑤精密検査を今後受ける予定である（50.8%）など、自己判断で受診されないケースが多く見受けられます。



### 4) 精密検査の受け止め方と精密検査受診の関係

検診結果が「要精検」と判定されたことへの感じ方と精密検査受診の関係では、「深刻に受け止めた」場合には、91.7%の方が精密検査を受診されていますが、「たいしたことはないと受けた」場合には、47.4%の方しか精密検査を受診されていませんでした。



## まとめ

平成18年度に当協会が県内の市町住民を対象に実施した各種がん検診の中で、精検受診率（86.1%）が3番目に低く、協力の得られた未把握者290人の追跡調査を行いました。このうち178人から回答があり、92人が精密検査を受診されていました。この92人の中から6人ががんが発見され、陽性的中率は6.5%と予想外に高い値を示しました。この結果から、調査時点でまだ精密検査を受診されていない方の中にも、相当数の「がん」が埋もれている可能性のあることが推測されます。

精密検査を受診されなかった理由としては「たいしたことはないだろう」、「連続して要精検であれば受診しよう」、「自覚症状がないから大丈夫だろう」などの自己判断で受診されていないケースが多かったようですが、決して安心はできません。

「要精検」の報告が届いたら地域の保健師さんやお近くの医療機関にご相談されて、必ず精密検査を受診されることをお勧めします。

# インフォメーション



## 笑顔あふれる子宮がん検診車 お披露目

家族の笑顔は子供たちの願いです。その願いがたくさん詰まった子宮がん検診車が完成しました。この検診車の笑顔の絵は、松山市内の東雲小学校と姫山小学校の児童200人に描いてもらいました。

愛媛県のがん検診車で受診率は、年々低下していますが「がん」は避けられない病気になってきました。この検診車は、広報促進につなげるために考案され、県内各地を巡回しています。

日本対がん協会の支部である(財)愛媛県総合保健協会は、県内各医師会の先生方のご指導とご協力を得て、より精度の高い子宮頸がん検診を実施しています。



## 肺がん検診車(FPD)完成

本年4月に、新しいX線撮影装置フラットパネルディテクタ(FPD)を搭載した胸部検診車を日本自転車振興会の補助を受けて導入しました。

FPDは、X線をデジタル信号に変換する薄型パネル状のデジタルX線イメージセンサーです。

撮影後約3秒で撮影画像を確認できる即時認識性と、画像の隅々までゆがみのない高品質のデジタル画像が得られることにより、精度の高い診断が可能となります。また、装置自体の感度が高いため、受診者へのX線被ばく量は低減します。

車体には新長期(平成17年)排ガス規制より更に厳しい低排出ガス重量車に認定された車体を使用しており、環境にも配慮しております。



## 松山で全国巡回がんセミナー“検診を受けて早期発見！”

6月26日に全国巡回がんセミナー「検診を受けて早期発見！」をテーマに、松山市総合コミュニティセンターで開催され、約270人の参加者に、がん検診による早期発見・治療を呼び掛けた。

国内ではがんで亡くなる方の数が、総死者数の約30%を占め、年々増加の一途をたどっている。検診の受診率を50%以上に引き上げようと全国展開でセミナーを開いている。

松山での講演は、日本対がん協会垣添忠生会長(国立がんセンター名誉総長)が「わが国のがん対策に占める検診の重要性」をテーマに、「市区町村が実施する肺、胃など5つのがん検診の受診率は平均17%と低い現状にある。がん死を減らすには、受診率を上げることが欠かせない。」と講じられた。

次に四国がんセンター高嶋成光名誉院長が「乳がん検診受診率50%、精密検査受診率100%をめざそう」をテーマに、「欧米でのマンモグラフィー受診率は70.8%もあり、非浸潤がんの発見が増加し、死亡率が減少しています。県内の受診率は約20%であり今後は50%以上の受診を目指す必要がある。精密検査は必ず受ける。早期に発見するには毎月1回の自己検診、とり過ぎない、マンモグラフィー検診を受診することを続けていけば、乳がんで亡くなることはまずない。」と講じられた。

最後に特定非営利活動法人(NPO法人)愛媛がんサポートおれんじの会の松本陽子理事長は「がん患者からのメッセージ」をテーマに、「10年前に子宮頸がんの告知を受け、治療を経験した。その時なぜ検診を受けなかったか、どうして病院に行かなかったかと思うと悔やまれる。皆さんと皆さんの大事な人のために検診を受けてほしい。」と講じられた。



松山大学は1923年に松山高等商業学校として創立されました。本学は、真実、忠実、実用の三実主義と称される校訓を85年の教育理念として掲げ、学問と人間性の涵養をめざして社会に有用な人材育成に努めています。

大学生5,934名、短大生226名、教職員368名（平成21年6月1日現在）を対象として、保健室事務長と常勤保健師3名、非常勤保健師・看護師各1名の計6名で活動しています。

保健室は、病気やけが、体調不良の人にとって利用しやすいよう、キャンパス構内の中央に位置しています。

大学生及び教職員が身体的・精神的に調和のとれた良好な状態となるよう、健康づくりを支援しています。

保健室の職務は、学生及び教職員の

- ①健康診断
- ②心身の健康に問題を有する学生及び教職員の健康相談・保健指導
- ③救急処置及び救急体制の整備
- ④カウンセリングルームの受付
- ⑤学校環境衛生に関すること

が主なものです。

集団検診では、教職員対象の胃レントゲン・腹部超音波検査を昭和56年から愛媛県総合保健協会の検診車により実施していましたが、平成20年度から学生対象の定期健康診断を愛媛県総合保健協会に委託契約し、お世話になっています。これにより学生から高い評価を受け、当室の健康診断業務の効率化が図られ、健康診断事後措置業務がより早期から細やかに対応できるようになっています。

学生と接するうえでは、主訴に基づきメンタル面も含めて健康相談を行いながら、将来、社会人として幸せな生活を送るためのお手伝いが少しでもできるよう心がけています。

現在、平成18年度から開設した薬学部の対応や、教職員の特定健康診査等、保健室業務も増加していますが、一人一人を大切に、ニーズに添った対応を心がけていきたいと思っております。

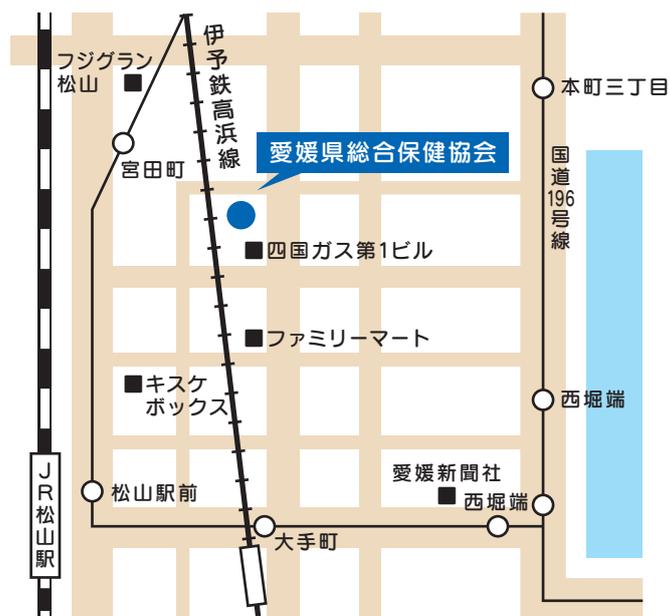


## 松山大学薬学部

The collage features a large image of the Faculty of Pharmacy building, a smaller image of a laboratory with students in white coats, and a close-up of a person handling colorful pills. There are also icons of a beaker and a flask.



左上から 中江 三井 昔志  
谷川 武智保健室事務長 勝田




**財団法人 愛媛県総合保健協会**

〒790-0814 愛媛県松山市味酒町1丁目10番地5  
<http://www.eghca.or.jp>

**【個人情報の取り扱いについて】**

本誌を送付させて頂いている皆様のお名前、団体名、事業所名、住所は、当協会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。  
 個人情報の訂正および削除を希望される場合には、お手数ですが事業推進課(089-987-8203)までご連絡ください。